

【理事会企画シンポジウム】 ギフティッドと子どもの多様性

コーディネーター: 安藤寿康 (常任理事・慶應義塾大学文学部教授)
シンポジスト: 角谷詩織 (上越教育大学大学院学校教育研究科教授)
シンポジスト: 当事者の大学生 <ビデオレター>
シンポジスト: 岡田啓吾 (上越教育大学附属小学校教諭)

【企画趣旨】

ギフティッドは、その卓越した能力ゆえに、社会のマジョリティの作り出した社会基準をそのまま受け入れることに疑問や抵抗を示したり、自らの洞察力や価値観、強い意志に基づいた行動を貫き通すことからマジョリティから理解されにくく、適応に困難を覚えることがある。また、成人前は適切な教育環境が与えられずに苦悩することもしばしばある。文部科学省は来年度からギフティッド児の学習を支援に乗り出そうとしているが、ギフティッドの子どもたちを適切に支援するためには、そもそもギフティッドの能力や特性がどのように表れ、どのような困難を経験しているのか、どのような支援が本当に有効だったと当事者が感じているかについての理解が必要不可欠である。

本シンポジウムでは、ギフティッド研究がこれまで蓄積してきた知見をふまえた上で、当事者(ギフティッド当事者、ギフティッド児をとりまく大人・教師)の語りに直接・間接に耳を傾けながら、その実態への理解を深めると共に、そのたぐいまれな傑出した才能をつぶすことなく、適切に伸張させるために、われわれ社会が何を考え、どうしなければならないかについて議論する機会を共にもつことを目的としている。

ギフティッドが投げかける問題は、人間の能力の発現の仕方とその発達過程に、いかに広い多様性があるか、その多様性の様相を認識する枠組みのどこが不十分か、その才能が社会の中で育つための適切な環境を設計するにはどうすればよいかを問いかけている。この問いはギフティッドの子どもたちのための問いであると同時に、翻って今日のわが国の教育が抱える問題性を映し出す鏡でもある。

【コーディネーター、シンポジスト 略歴】

安藤寿康: 慶應義塾大学文学部教授。博士(教育学)。専門は教育心理学、行動遺伝学、進化教育学。著書に『遺伝と環境の心理学—人間行動遺伝学入門』(培風館)、『日本人の9割が知らない遺伝の真実』(SB新書)、『「心は遺伝する」とどうして言えるのか—ふたご研究のロジックとその先へ』(創元社)、『なぜヒトは学ぶのか—教育を生物学的に考える』(講談社現代新書)、『生まれが9割の世界をどう生きるか』(SB新書)などがある。

角谷詩織: 上越教育大学大学院教授/発達心理学・教育心理学/お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了博士(人文科学)。分担著『生活の中の発達—現場主義の発達心理学』(新曜社)、『教師になる人のための学校教育心理学』(ナカニシヤ出版)など。監訳・翻訳『ギフティッド その誤診と重複診断: 心理・医療・教育の現場から』(北大路書房)、『わが子がギフティッドかもしれないと思ったら: 問題解決と飛躍のための実践的ガイド』(春秋社)など。

岡田啓吾: 新潟大学教育人間科学部学校教育課程卒業。福井県公立小学校で講師として勤務した後、新潟県公立小学校教諭として勤務。途中、現職教員派遣制度により、上越教育大学大学院修士課程を修了。2019年度より現任校に勤務し、現任校の伝統である、生活科や総合的な学習の時間を中核とした実践的な教育課程開発研究に取り組む。現在は、学級担任を離れ、主幹教諭として学校運営や職員をサポートに当たっている。